文化・スポーツ振興対策特別委員会　管内調査
令和３年 11 月 17 日（水）

１　多治神社民俗芸能保存会〔於：多治神社（南丹市）〕

【調査事項】
　コロナ禍における伝統行事・祭礼の継承について

【調査目的】
　新型コロナウイルス感染症による感染防止対策のため、規模の縮小や制限をせざるを得なかった伝統行事や祭礼について調査し、京都府における伝統行事・祭礼の継承に向けた取組の参考とする。

【調査内容】
　南丹市の多治神社では、国の重要無形民俗文化財に指定されている「田原の御田」や京都府無形民俗文化財にも指定されている「田原のカッコスリ」という伝統行事が古くから行われてきた。田原の御田は５月に豊作を祈願して行われる祭りであり、カッコスリは 10 月に豊作を感謝して行われる秋祭りである。
　田原の御田は鎌倉時代後期から、カッコスリは室町時代初期から現代に至るまで行われてきたが、近年は過疎化や少子高齢化の進行による担い手不足や、神社の財政逼迫などが課題となっていた。
　さらに、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、神社の手水舎や本坪鈴の使用制限を実施するなど、神社を十分に使用することができなくなったことに加え、田原の御田とカッコスリについても、氏子総代、区役員、多治神社民俗芸能保存会による神事のみ実施するなど、規模を縮小して実施せざるを得ない状況であった。
　しかし、そのような状況下においても、伝統行事の継承に向けて、地元小学校の地域学習での田原の御田の実演や、伝承のあり方を考える研修会の開催などの取組を実施しているところである。
　今後は、祭り執行のためのマニュアルの作成や、捻出困難な祭り用具の更新経費の補助制度の拡充を要望する等、伝統行事の継承に向けた更なる取組を検討する予定であるとのことであった。

【主な質問事項】
・田原の御田の歴史について
・多治神社における観光について
・祭りの運営費用について
・祭りの担い手の確保に係る工夫について　など

調査事項を聴取

多治神社を視察

２　サンガスタジアム by KYOCERA（亀岡市）

【調査事項】
　スポーツ施設の整備による地域のスポーツ振興について

【調査目的】
　サンガスタジアム by KYOCERA は、2020 年１月のオープン以降、スポーツを観戦するだけではなく、様々なスポーツを「する」機会を創出するプラットフォームを目指して歩みを進めてきた。その取組状況について調査し、今後の文化・スポーツ振興に向けた施策の参考とする。

【調査内容】
　サンガスタジアム by KYOCERA は、国際試合も可能な球技専用複合型スタジアムのほか、e スポーツゾーンや VR/フィットネスゾーンなど、先端テクノロジーを活用した設備が整備されている。2021 年 10 月には、オートバックスセブンドローンサッカーアリーナ京都がオープンするなど、子どもから大人まで、また、障害のある人も楽しむことができるスポーツの普及にも貢献している。
　また、スポーツ施設としてだけではなく、コワーキングスペースの設置や、府内の小・中学校の社会見学の受入などを通して、幅広く地域の人たちに親しまれている。
　コロナ禍にあっては、学校行事の取りやめが相次ぐ中、スタジアムの広大な敷地を活かし、亀岡市内の中学校の体育祭や文化祭が行われた。感染拡大防止のため校内では満足にできなかった合唱や吹奏楽の演奏ができたほか、人と人との間隔を十分にとることができたため、保護者や地域の人も来場することができ、好評であったとのことである。
　今後とも、サンガスタジアム by KYOCERA は、スポーツの拠点としての機能にとどまらず、地域の文化・教育の場としても広く活用される予定であるとのことであった。

【主な質問事項】
・様々なスタジアムの活用事例について
・スポーツ拠点としてのスタジアムの機能について
・e スポーツやドローンサッカー等の今後の展望について　など

調査事項を聴取

ドローンサッカーアリーナを視察

３　みずのき美術館（亀岡市）

【調査事項】
　みずのき美術館におけるアール・ブリュットの取組について

【調査目的】
　文化芸術やスポーツなど、様々な分野で一人ひとりの特性を活かして活躍できる社会の実現に向けた施策の参考とするため、障害者支援施設みずのきの絵画教室から生まれた作品を所蔵・展示するみずのき美術館の取組を調査する。

【調査内容】
　1964 年、障害者支援施設みずのきでは、日本画家の西垣 籌一氏を招き、入所者のための余暇活動及び情操教育として絵画教室を開始された。その後、本格的な絵画指導に切り替えられ、入所者により１万点を超える作品が制作された。
　みずのき美術館は、伝統的な美術教育を受けていない作り手によって制作される作品を指すアール・ブリュット（「生の芸術」）という概念の考察を基本とし、障害者支援施設みずのきで生まれた作品を所蔵・展示する美術館である。
　障害者支援施設みずのきで絵画教室が始まった当時は、障害のある人が絵を描くことは一般的ではなく、斬新な取組であった。最初は画用紙とクレヨンのみで描くことから始まり、数年後、より専門的な画材を使用して絵画を描くようになった。制作された作品は、欧米などでも紹介され、国内外から高い評価を得るまでになり、それらの作品を所蔵・展示するため 2012 年にオープンしたみずのき美術館は、もともと理髪店であった町屋を改装して作られており、亀岡の創造拠点としても地域に貢献し、公演やワークショップなども開催されている。
　みずのき美術館は、様々な個性をもつ障害者支援施設みずのきの入所者によって制作された作品を通して、多様性への理解が広まっていくことを期待するとともに、作品を通した会話が生まれることを目標としているとのことであった。

【主な質問事項】
・アート作品を収集・展示する基準について
・作品を保存する上での工夫について
・アール・ブリュットが美術に及ぼす影響について　など

調査事項を聴取

展示作品を鑑賞